



日乗連ニュース

発行：日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan

ALPA Japan NEWS

〒144-0043

東京都大田区羽田5-11-4

フェニックスビル

TEL.03-5705-2770

FAX.03-5705-3274

E-mail:office30@alpajapan.org

www.alpajapan.org

Date 2010.09.17

No. 34 - 12

いのちⅡ

2010年7月31日

命と安全を守り労働のルールを考えるシンポジウム

航空、医療関係者など200名以上の参加者で成功

2010年7月31日 13:00-16:30 The Grand Hall において「いのちⅡ」シンポジウムを開催した。マスコミ6名を含む、246名の参加があった。

日乗連議長の開会挨拶に始まり、日乗連 HUPER「航空における疲労リスク管理」、全国医師ユニオン「医師の過重労働と医療事故」、労働科学研究所 理学博士「パイロットの事例分析から見た長時間過密労働と夜勤」の基調講演を行なった。

パネルディスカッションにおいては、客室乗務員、看護師、弁護士も参加して「いのちを守る人の命が危ない」「疲労を科学的に検証」「疲労とリスク管理」「法律の不備」「より安全な社会へ」「いのちと安全を守るルール作りが必要」「いのちを失ってから、安全対策をとる愚」「事故の未然防止へ」など活発な意見交換を行なった。

最後に、以下の運動方針を宣言し閉会した。

安全な医療、交通を提供し、利用者を犠牲にすることなく、
過労死や過労による事故のない社会の実現を求めていく。

科学的知見を取り入れ、疲労が引き起こすかもしれないリスクを
未然に防止し、命と安全を守るため労働のルールを整備していく。

[参加者からのアンケート結果]

- ✓ 現行の働く基準は、航空、医療、他の業界における長時間不規則勤務と実態があっていない。個人の責任に頼るのは限界があり、早急にルール作りが必要である。
- ✓ 疲労は安全のリスクということがよくわかった。
- ✓ 航空、医療だけの問題ではない。労働者全体の問題である。社会的な取り組みが必要。
- ✓ 科学的知見を取り入れて、いのちと安全を守るルール作りが急務。
- ✓ 疲労リスク管理の取り組みを拡げていくべきである。

